



観測部流星課報告 (29)

課長 小 槇 孝 二 郎 (K. Komaki)

昨1931年4月及3月に於ける流星観測数は下記の通りである。(Summary for March & April, 1931)

観 測 者 Observer	略符 Abbr.	観 測 地 Locality	三 月 (March)			四 月 (April)		
			回数 Night	時間数 Duration	流星数 Meteors	回数 Night	時間数 Duration	流星数 Meteors
宮 澤 堂	Mz	花 山 天 文 臺	4	161	14	3	233	35
廣瀬永治郎	Ir	岐阜縣美濃町	5	287	33	4	167	18
小槇孝二郎	Ko	和歌山縣金屋	3	65	9			
山 田 長	Yd	山 口 縣 小 郡	2	122	3	5	320	18
佐藤 米茂	Sa	島 根 縣 濱 田	1	75	6			1
齋藤平八郎	So	函 館 市	1	33	1	3	222	19
下 保 茂	Kh	札 幌 市	6	246	9	3	195	35
阪元 鐵馬	Sk	福 岡 縣 箱 崎	3	150	12	3	252	14
八幡 修一	Yw	長野縣平野村	3	230	36			
荒木 健兒	Ar	倉 敷 天 文 臺	3	170	13	1	60	2
天野 吉郎	Am	函 館 市				7	167	10
麻生佐七郎	Ab	大 阪 市				2	60	2

以下は微光流星観測者の観測数である。

長谷 秋男	Ng	廣 島 市	6	127	257			
鹽見 幸三	Sh	京都府福知山	1	20	13	3	130	90
窪田 繁夫	Ku	京都府福知山	12	858	885	4	245	185
能勢 繁生	Ns	京 都 府 中 筋	13	1603	581	11	749	226
村上庫二郎	Mu	京 都 府 綾 部				3	197	34

此の外数個の流星報告があつたが省略した。

1. 觀測の概略 (Daily Summary of observations)

日 時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間 Dur.	流星 Me- teors	F.	日 時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間 Dur.	流星 Me- teors	F.	日 時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間 Dur.	流星 Me- teors	F.	
Mar.					Mar.					Apr.					
7.82	Hr	44	3		21.94	Hr	60	4		16.96	Hr	10	1		
8.86	シ	60	10		21.95	Sa	75	6	0.7	17.87	Am	17	1		
8.93	Ko	25	3		22.18	Yw	30	3	1.0	17.96	Sk	90	2	0.3	
8.95	Sk	60	4	0.7	22.89	Yd	60	2	0.8	18.01	Hr	60	5		
9.92	Hr	90	10		23.13	Yw	120	21	1.0	18.97	シ	37	1		
11.93	シ	33	6		24.92	Yd	62	0	0.6	18.98	Sk	60	0	0.5	
13.85	Mz	51	2		24.94	Sk	60	7	0.5	19.00	Mz	120	12		
14.11	Ar	60	5	0.9	25.01	シ	30	0	0.5	19.06	Am	40	1		
14.83	Kh	60	0	0.8	28.08	Ar	40	2	0.7	19.15	Yd	60	5	0.8	
14.85	Mz	30	3		29.13	Ko	20	2		19.90	So	102	3	0.7	
15.16	Kh	38	0	0.6	Apr.	7.79	Mz	30	3	0.0	19.92	Am	20	2	
15.18	Ko	20	3	0.7	7.90	Yd	60	0		20.10	So	60	12	0.9	
15.81	Kh	50	0	1.0	7.90	Ar	60	2		22.90	シ	60	4		
16.19	シ	20	1	0.8	8.90	Yd	60	1	0.7	22.97	Sk	102	12		
16.81	シ	36	4	1.0	8.94	Am	15	1		22.97	Ab	30	1		
16.91	So	33	1	0.7	9.85	Kh	30	4	0.9	22.99	Hr	60	11		
18.82	Kh	28	2	0.7	9.90	Yd	60	1	0.7	23.01	Mz	83	20		
18.87	Mz	20	2		9.95	Am	25	2		23.11	Kh	105	30	1.0	
19.10	Ar	60	5	0.9	10.91	シ	15	1		23.15	Yd	80	11	0.8	
19.81	Kh	14	2	1.0	12.84	Kh	60	1	1.0						
19.85	Mz	60	4		12.92	Am	35	2							
21.17	Yw	80	12	1.0	14.97	Ab	30	1							

2. 觀測されたる大流星 (Bright Meteors)

日付 Date	観測者 Obs.	出現時刻 Time (J.C.T.)	確度 Wt.	継続時間 Duration	光度 Magn. 度	速度 Velocity 度	色及其他 Colour &c.	出現點 Appearance		消滅點 Disappear		流星群 Swarm
								α	δ	α	δ	
Mar.												
19	Ar	2 19	4	0.5	—2	R	R 痕(4S)	214°	—16°	197°	—26°	(消滅點 不確)
21	Yw	4 3	4	5.0	—2	R	Yw 痕(5S)	273	—10.5	233?	+53?	
23	シ	3 37	5	0.2	—2	rR	RY 痕(2S)	277	—13	272	—13	
29	Ko	3 17	3	0.6	—3	M	Y	328	+54	346	+50	
Apr.												
8	Hr	19 1	1	0.5	Jup.	rR	金色	355	+61	335	+48	(乙女座 火球?)
9	*Sn	18 55	2	0.5	—4	R		189	+30	191.5	+31	
12	Am	21 45	4	1.5	Jup.	S	W	182	+12	158	+17	
22	Hr	23 52	5	1	—2	M	R → WY オレンジ色 ノ痕アリ	253	—22	245	—40	
23	Yd	4 13	5	0.4	>—3?	rR	W → WB 痕(2S)	335	+46	352	+42	

* Sn は花山天文臺に於ける千田氏の觀測である。

3. 流星群の出現状況 (Notes on Apparitions of Meteor Swarms)

琴座流星群 (Lyrid)

天候にめぐまれなかつた爲め連日に亘る
観測は得られなかつた。22日-23日は全国

各地とも晴れたので稍多數の観測を得た
が、一時間の出現数は10個以下に止つてゐ
る。概略を掲げると、

日付 Date	観測者 Obs.	観測開始 Begins	同終了 Ends	時間数 Duration	流星数 Meteors	F.	琴座群 Lyrids	同左一時間平均 Hourly Mean	備考 Remarks
Apr 17-18	Hr	23 46	0 46	60	5		3	3.0	此外に 8個 の流星見ゆ
20	So	2 0	3 0	60	12	0.9	4	4.0	
22	Sk	22 18	24 0	102	12	0.9	8	4.7	
22-23	Hr	23 22	0 22	60	11		7	7.0	
22-23	Mz	23 37	1 0	83	20		9	6.5	
23	Kh	1 40	3 30	105	30	1.0	15	8.6	
23	Yd	3 0	4 20	80	11	0.8	3	2.3	

輻射點は Denning のものより北方にある。又此時期にヘルクレス座及び北冠座に活動する流星群のあることは毎年注意されてゐるところであるが、本年は宮澤氏によりヘルクレス座の輻射點が得られた。

聴見、窪田、能勢三氏も微光流星の方面からこの流星群を観測せられ、夫々數個の

輻射點を得られた。観測された輻射點の位置の一致しない事は観測誤差以外に、流星群に副次的な分流の存する事を豫想し得られる。

此流星群以外には著しい流星群は見られなかつた。

4. 観測より誘導したる輻射點 (Radiant points derived from observations)

番 號 Curr. No.	日 時 Time (J.C.T.)	輻射點(Rad. Pt.)		流星數 ↓	観測者 Observer	確 度 Weight	流 星 群 Swarm
		R. A.	Decl.				
1049	Mar. 23.13	238	+14	4	Yw	3	Serpentid
1050	23.13	212	+10	5	ク	3	Bootid
1051	23.88	154	+17.5	4	*Az	4	γ-Leonid
1052	Apr. 22.97	273	+39	8	Sk	5	Lyrid
1053	22.99	268	+38	7	Hr	4	Lyrid
1054	23.01	262.5	+23	4	Mz	3	λ-Herculid
1055	23.11	272.5	+37	11	Kh	4	Lyrid

* Az は倉敷天文臺に於て東快雄君の観測せられたものである。この外、微光流星による輻射點を多數得てゐるが發表を省略した。

彗星だより

課長 柴田淑次

1931 c (Ryves) 彗星 Lick に居る Dr. Bower は、此の彗星は双曲線軌道であると主張したが、10月15日の中村要氏の観測及び、10月9日の Van Biesbroeck の観測によく合はないと云ふ事は前號に書いた通りである、果して、Dr. Bower は其後改めて、拋物線軌道を算出した。其軌道要素そのものは未だ入手して居ないけれど、それより算出した豫報位置は、下の通りである。

月日	赤經	赤緯	地球より の距離	光度
1月 3日 9時43分4秒	+5°36'.3	1.973		
13 9 21 45	7 13.2	2.003	9.2	
23 8 59 56	8 54.6	2.074		
2月 2日 8 39 14	+10 31.7	2.191	9.7	

但し赤經、赤緯は、1900年の分點である。此の豫報の Correction としては、10月9日に、赤經-3.1 赤緯+1.8 程度である。前の双曲線軌道の Correction に比べて著しく小さくなつて居る。(以上 H.A.C.184). 光度は、12月中旬、約9等と計算されて居るが、實際12月17日の朝の中村要氏の寫真観測によると、實に11等位、又眼視観測によれば12等であつた。計算より遙かに淡いから、観測者は注意を要する。又其核は、所謂中心と云つた様なハッキリした部分がなく、爲めに Micrometer の観測は非常に困難らしい。彗星の尾は相變らず半度ばかり寫真に撮つて居るが其方向は太陽に向つて居る。彗星の尾が太陽に向つて居ると云ふ現象は、面白い事で、Van Biesbroeck も、大いに一般に注意を促がして居る。(P. A. Nov. 1931). 此の彗星は、昨年 8月末著しく太陽に接近したので、色々珍しい變化を見せた。これから後は、段々天頂に近づく観測に便利になるから、大きい器械の所有者は、奮發する必要がある。

1931b (Nagata) 彗星 Dr. Smiley は、昨年7月19日、31日及び8月12日の観測より次の軌道要を計算した。

$$\left. \begin{aligned} T &= 1931 \text{ June } 12.0823 \text{ U.T.} \\ \omega &= 320^\circ 34' 7'' \\ \Omega &= 191 \quad 6.6 \\ i &= 42 \quad 14.5 \end{aligned} \right\} (1931.0)$$

$$q = 1.0520$$

此れより計算した豫報位置の Correction は、10月21日に於いて、赤經+20 Sec 赤緯-0.2 である。

此の彗星も其光度が大いに不規則に變化したのであつて、昨年 9月終りには11等、10月5日には12等位であつた所、10月10日には一躍8等迄上り、8月の時と同じ位の明るさになつた。其れは其時彗星が B.D.+6°.300°と云ふ8.2等の星の極く近くを通つたので、直接此の星と比べる事が出来た。それから12日迄は其の位の光であつたが17日に至つて 9等になり21日には10等以下つた。此後は段々距離が大きくなつて行くから光度も追々減つて行く。12月 6日には太陽と衝になつて、太陽の北29°位の所にある。それから此彗星は夜明けに見える様になる。(以上 P. A. Nov. 1931)

1931 d (Neujmin) 彗星 前號に、其光度15等と報じたけれど其れは電文の誤りで實は17等である。筆者も、F. 3.8の反射鏡で、其附近を撮影したが何も撮らなかつた。其の豫報位置を掲げてみようが、何分、光度が少ないので御遠慮しよう。其後に別に變つた News もはいらない。

疑問の彗星 (Durrad)

昨年11月6日 Leicester の J. W. Durrad 氏は、肉眼を以て北極の近くに彗星らしいものを發見した。其翌日も、観測したらしく、其位置は下の通りである。

1931	赤經	赤緯	光度
11月6日	11h 30m	+80°	肉眼
7	10 0	+70	〃
9 19時 9	0	+68	4等

此れを見ると運動がべら棒に大きい事が目立つ。併し、11月 10日に Bergedorf の Schwassmann や Wachmann が観測したけれど何ら其れらしい物はなかつたと云つて居る。(B. Z. Nr. 38). 其後、今日迄誰れも見たと云ふ報告はないから、多分何かの間違ひであらう。其の後 Crommelin が之れを否定した。

本會々員は觀測部に加入せられよ

天文同好會の觀測部は去る大正十年九月に組織されたもので、既に滿十年の輝やかなしい歴史を有し、“Observing Section, S. A. F.”の名の下に、全世界同志と相携へて、直接に學界と接觸してゐる。昨秋、部の規約を新たに定めて陣容を整へ、上田部長を頂き、其の監督の下に、次の八課の活躍が行はれてゐる。

1. 流星課 (課長 小椋孝二郎, 幹事 宮澤 堂)

全國を六班に分ち、絶えず課報其の他による連絡を取りつゝ觀測を遂行してゐる。觀測報告は日英兩文のものを「天界」に發表し、又、特殊なものは花山ブレテンに載せる。甲乙二種類の流星用星圖を出版してゐる。

2. 彗星課 (課長 柴田 淑次)

絶えず新彗星の搜索を奨励し、又、觀測をなし、豫報を出してゐる。

3. 變光星課 (課長 小山 秋雄)

日本變光星學會と密接に連絡し、觀測を奨励し、星圖の研究や發行をしてゐる。

4. 太陽課 (課長 上 島 昇, 幹事 山本 英子)

黑點觀測に全力を集中し、全國に十數名の課員を以つて、活躍をしてゐる。

5. 黃道光課 (課長 荒木 健兒, 幹事 龜井 壽彦)

米國カネギ學院と連絡を取りつゝ東洋の黃道光現象並びに黃道帶や對日照の觀測をし、結果は花山ブレテン及び米國カ學院で發表する。

6. 豫報課 (課長 山本 一清, 幹事 柴田 淑次)

年鑑の編輯や天體諸現象の計算豫告をし、花山ブレテンや本會の急報を賑はしてゐる。

7. 機械課 (課長 中村 要)

觀測器械の設計をし、又、製作や使用上の指導や研究をしてゐる。

8. 寫眞課 (課長 中 村 要, 幹事 三宅 義夫)

天體寫眞の研究と指導をなし、又、教育用の天文幻燈を製作してゐる。

本會々員は單に加入申込みと部費納入により、何れの課にでも加入することが出来る。加入と共に、課長との連絡により、其の指導を受けて、天體觀測の經驗的興味と各種の特權とが與へられる。